

朱鷺・自然再生学研究センター主催シンポジウム

朱鷺とともに生きる

～トキをシンボルとした自然再生と超域朱鷺プロジェクトのあゆみ～

2013年12月11日(水) 15:00～17:40

新潟大学附属図書館1Fライブラリーホール

プログラム

1. 開会挨拶 (15:00-15:10) (下條文武学長)
2. センターの概要 (15:10-15:30) (山村則男センター長)
3. 講演 (15:30-17:10)
 - 3-1. 「トキの科学の最前線」—どこまで解明されたか? (15:30-16:00) (永田尚志准教授)
 - 3-2. 「里地里山の自然再生:放棄棚田の再生と農法による環境・経済好循環システム」 (16:00-16:30) (小林頼太特任助教)
- 休憩 (16:30-16:40)
- 3-3. 「自然再生を目指した教育・地域貢献活動」 (16:40-17:10) (大脇淳特任准教授)
4. 能登における自然再生の取り組みから (17:10-17:30) (金沢大学 中村浩二特任教授)
5. 閉会挨拶 (17:30-17:40) (仙石正和理事)

司会進行 (箕口秀夫副センター長)

問い合わせ先

新潟大学超域朱鷺プロジェクト事務局
(025)262 - 6602



朱鷺・自然再生学研究センターの沿革

- 平成14年(2002年)4月 日本経団連自然保護基金の助成を得て、農学部F C佐渡ステーション本間航介助教授(現・准教授)が地元ボランティアとともに、トキの野生復帰を支援する活動や研究を開始
- 新穂地区キセン城の放棄棚田地を新穂村や地元民から借り受け、生物多様性に配慮したビオトープ造成・維持管理手法に関する研究・教育活動を開始
- 平成15年(2003年)4月 新潟大学地域貢献事業「トキ野生復帰プロジェクト(学長裁量プロジェクト)」として本格的に始動
- トキ野生復帰プロジェクト事務所を佐渡郡新穂村潟上(現・佐渡市新穂潟上)に設置
- 平成18年(2004年)5月 佐渡市委託事業「佐渡市環境教育副読本 佐渡島環境大全の指導書,小学生用,中学生用の作成事業」開始
- 平成19年(2007年)4月 「トキの島再生研究プロジェクト(環境省地球環境研究総合推進費「トキの野生復帰のための持続可能な自然再生計画の立案とその社会的手続き」)」の開始
- 平成20年(2008年)12月 トキ野生復帰プロジェクトとトキの島再生研究プロジェクトを融合し、超域研究機構に「超域朱鷺プロジェクト(3年間)」を発足
- 平成21年(2009年)4月 超域朱鷺プロジェクト事務所を佐渡市新穂潟上のトキ交流会館内に移動
- 平成22年(2010年)4月 超域朱鷺プロジェクトの実施主体となる朱鷺・自然再生学研究センターを佐渡市トキ交流会館内に開所
- 初代センター長 山岸哲(平成22年4月～平成24年7月)
- 地方自治体との連携による自然再生を支援する地域社会づくり推進のため、佐渡市職員がセンターに常駐
- 平成22年(2010年)7月 「朱鷺の島環境再生リーダー養成ユニット(科学技術総合推進費)」の開始
- 平成23年(2011年)4月 超域研究機構の改称により、研究推進機構超域学院へ移行
- 平成23年(2011年)5月 「自然再生学講座—環境・経済好循環推進事業(佐渡市寄附講座)」の開始
- 佐渡市新穂潟上地区に実験水田を造成し、環境保全型農業の検討を開始
- 佐渡市委託事業「佐渡市環境教育副読本の改訂版作成事業」の開始
- 平成23年(2011年)9月 トキの保護増殖事業の機関として、環境省から認定を受ける
- 平成23年(2011年)12月 超域朱鷺プロジェクトの継続(3年間)
- 平成24年(2012年)8月 佐渡市委託事業「佐渡動植物生息実態調査」の開始
- 第2代センター長 山村則男(平成24年8月～現在に至る)
- 平成25年(2013年)5月 「再導入による希少鳥類の保全手法の確立に関する研究(環境省環境研究総合推進費)」の開始

